

#### リフォーム前→リフォーム後



リフォーム前



① 既存写真：道路からの見上げた外観



② 既存写真：玄関正面からの外観



③ 既存写真：玄関と解体した増築部分



④ 既存写真：内観



⑤ 現場写真：瓦撤去後の野地板の様子

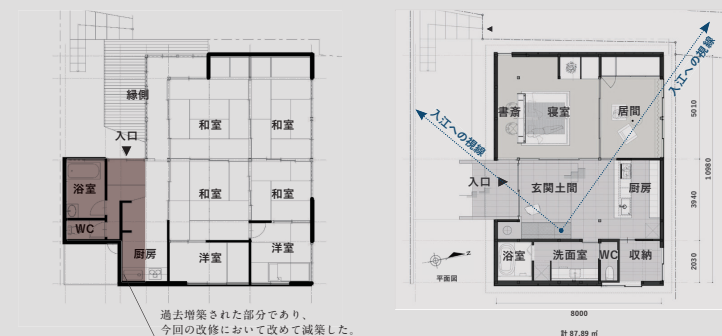
#### リフォームコンセプト

##### 地域の生業と伝統工法の共鳴

鹿児島県のとある漁村に建つ築90年の民家に、料理人が移り住むことになった。私たちは地域の素材に着目する料理人の世界観に触発され、建築においても地域性を感じさせるものづくりができないかと考えた。この地の漁港に積まれた、荒々しい銀色の水揚げ銅製箱が印象的であったこと、アジやイワシなどの青魚が近海で多く獲れることから、銀色の銅製箱で古民家を覆うことで、地域の文化を継ぎ、この先も永く保存されていく民家の姿を構想した。かつて客人を迎える空間であり、厨房でもあった、「玄関土間」の起源を再考し、土間の連続性によって、外部から一続きの内部を設えることで、漁村における公的な場を設けた。地域の生業の延長にありながら、地域の未来を予感させる、現象のような建築を目指した。

#### 性能改善について

- 耐震性能向上：セメント瓦を撤去し、ガルバリウム鋼板に葺き替え、屋根を軽量化した。
- 剛性向上：床組下地、外壁下地に用いた構造用合板によって、強度・剛性を向上させた。
- 維持可能性向上：シロアリ対策として、調査の上、塗布処理を行った。
- 断熱性能向上：居住域を限定し、断熱性能を局所的に高めた。



リフォーム前 平面図

リフォーム後 平面図



漁港の日常



漁港に積まれた銀色の水揚げ銅製箱

漁村の日常と  
地域の文化を纏う素材としての着目した銅製箱



漁村の風景の中にアートピースのように存在する「風土の家」 急速に進化するこの地において、デザインによって新しい価値を生み出したいと考えた  
また、長寿命化への配慮として、取り替えた外壁下地に構造用合板を用い剛性を高め、またセメント瓦を撤去し板金に葺き替えたことで軽量化し、耐震性を向上させている



石垣の記憶と共存する生業としての銀箱  
石場立てによる伝統工法をそのままに保存している



外部から一統きの「玄関土間」  
銀箱に保存された、歴史を纏う内部空間



かつて客人を迎える空間であり、厨房でもあった「玄関土間」の文化を再解釈し、  
おもてなしの場を設えた。土間と寝室のレベル差はベンチの高さ(350mm)となるように計画している



玄関土間のアイストップとして存在する  
キッチンカウンター



風景を切り取った窓と  
ベッドフレームと一体化したワークテーブル



コンパクトな空間に寝室、厨房、書斎と  
多様な居場所と過ごし方を生み出している



90年前の土壁と対比的に新しく挿入した土間  
洗面・浴室・トイレの水回りへも繋がっている

応募者・設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
atelier SALAD 徳永孝平・梶井寛子	株式会社 城山 中村紀文・臼井隆司	約 90 年	木造	伝統工法	2025 年 4 月	90 日間	—	阿久根市	全面リフォーム